



小沢市長から記念品を受け取る佐藤君

市総合体育館（Zアリーナ）の入館者数が8月10日、延べ150万人に到達しました。江刺第一中の佐藤和幸君（13歳）が贈呈されました。同体育館は、平成10年に開館。全国規模の各種スポーツ大会などが開催されています。

【ゼット】 — Zアリーナの入館者が150万人に —



市長感謝状を贈呈される功労者

市と市公衆衛生組合連合会（千田祐会長）主催の市環境衛生大会が8月9日、胆沢文化創造センターで開催され、市民など約250人が出席しました。大会では、地域の環境活動に貢献した3団体と21人を表彰。大会宣言で、ごみの減量化と資源循環を図ることなど4項目を採択し、住みよいまちづくりの実現に取り組む決意を新たにしました。

— 市環境衛生大会で功労者を表彰 —

第11回みちのく奥州イブニングサロン（同世話人会主催）が8月7日、前沢区の懇親デジアイズを開催されました。多様な分野の人的交流を目的としたもので、この日は51人が参加。「情報発信のチカラ」をテーマとした事例発表が行われ、意欲あふれる参加者は熱心に聞き入り、その後の情報交換会では、積極的に交流を深めました。



工場見学で製品説明に聞き入る参加者



地区振興会の代表から要望書を受け取る小沢市長

地区要望を聞く会を7月29日から8月7日まで、各総合支所で行いました。この会は、地域と行政の意思疎通の場と位置付け、毎年、地域の課題を直接聞いているものです。本年度は、地区振興会などから302項目の要望が出されました。要望に対しては、これまでの経緯なども踏まえ、現地調査を実施し、11月をめどに回答する予定です。

— 地区要望を聞く会で地域課題を把握 —

— 就職ガイダンス —



企業の担当者から説明を受ける参加者

市と近隣市町などが主催する花北・胆江地域合同就職ガイダンスが8月8日、水沢区のプラザイン水沢で開催されました。ことしから、花北地域と合同での同ガイダンスには、来春卒業予定の学生や、既卒者など77人が来場。求人事業所から必要な人材や各企業の情報などを熱心に聞いていました。営業職を希望する市内20代女性は「市内で働きたい。営業が希望だが、それ以外の職種の話を聞いてみたい」と語っていました。



表敬訪問する参加者（ロイテ市庁舎）

市内中学生による海外研修が8月1日から9日まで、姉妹都市のオーストリア・グレーター・シエバートン市などで行われました。昭和54年に旧江刺市で同市との姉妹都市交流が始まり、地の授業に参加したり、歴史や自然、文化に触れたりして、国際理解を深めました。



計画案の説明を受ける地域住民（前沢会場）

市景観計画案の住民説明会を8月21、22日の2日間、前沢総合支所、市役所本庁、胆沢総合支所の3会場で開催しました。本計画は、調和がとれた奥州市らしい良好な景観を形成するための総合的な指針となるもの。説明会に参加した住民からは、「この計画が奥州市のものとなるように、行政として住民の意見を聞きながら進めてほしい」のほか、「この計画で本当に景観が守れるのか」など厳しい意見も出されました。

— 景観計画説明会 —

— 植川熱が前沢に立地 —



記念品を受け取り笑顔のナツさん

市は、8月13日に満百歳を迎えた高橋ナツさん（水沢区羽田町字下屋敷）に記念品を贈り、長寿を祝いました。ナツさんは江刺区田原に生まれ、21歳のとき、故・正人さんと結婚。3男5女をもうけ、孫18人、ひ孫32人に恵まれました。裁縫が得意で、着なくなった服を仕立て直すことも。好き嫌いせずに何でも食べることが長寿の秘訣です。



握手を交わす小沢市長、川崎社長、飛鳥川県企業立地推進課総括課長（右から）

金属熱処理加工などを手掛けける株川熱（本社・神奈川県、川崎日出雄代表取締役）が前沢インター工業団地へ進出することが決定し、8月26日、市役所で調印式を行いました。同工場は、主に被災地の工事で必要な資材を製造し、復興に携わる考え。小沢昌記市長は「東北に寄せられる思いが復興の大きな力になる」と感謝の言葉を述べました。

市内高校生4人が8月19日から28日まで、姉妹都市のオーストリア・ロイテ市、ブライテンヴァンゲ市に派遣されました。江刺区内に立地している企業の親会社があることで姉妹都市交流が始まり、今回で19回目の派遣。参加者は、両市への表敬訪問の後、ホームステイをしながら欧洲文化を感じ、国際感覚を養いました。

現地の中学校の授業に参加した様子

— 市内中学生が豪州を訪問 —